

スノーボーダーNとスキーヤーMとの通話記録(抜粋)反訳

録音日:2025年3月25日

記録者:スノーボーダーN野村一也

<スノーボーダーN>

あなたが仰ってるのは、いきなり、僕が警察を通して、民事でやってきた、ということをおっしゃるばかりの言い方をしてますけども・・・

<スキーヤーM>

そうだと思ってます。はい。全くその通りだと思ってます。

でもね、あのときに私が怒ってたのは、あなたの言ってる内容に対して怒ってた、というのは、当然、あなたも自覚ありますよね？

<スキーヤーM>

激昂されてるのは十分わかります。

<スノーボーダーN>

激昂っていう、人をいかにも感情的で。どうにもならない状態になってるかのような言葉を使うのは、止めてもらえませんか？

<スキーヤーM>

いや、僕、そう思いました。すごく、僕は恐怖を覚えました。はい。

<スノーボーダーN>

あのね、あなたが、あのときに、「そっちが避けるのが当たり前」という論調のことを・・・

<スキーヤーM>

全くそんなこと言ってません。それは全く違います。

<スノーボーダーN>

・・・ちょっと待って・・・

<スキーヤーM>

言った、言わないになるかもしれませんが、僕はそんなこと言ってないです。

<スノーボーダーN>

あなた方は、競技者として、通常のスキー場で。普通のスキーヤーやスノーボードより高い

スピードで滑ってる、という自覚はありますか？

<スキーヤーM>

どこまでが通常で、どこまでが通常じゃないかって言われると、それは、ちょっと、私ども分かりません。

<スノーボーダーN>

いや、だって、あなた方はレーサーですよ。あなた方は、見るからにレーサーで、レースをするために練習をしてる人と、初心者や遊びレベルのものと、スピードに一定の差があるのは、具体的には言っていないです。ある程度の差があることは、あなたも自覚してますよね？

<スキーヤーM>

いや、分かりません。そこまで、人と比べたことないんで、分かりません。私たちが練習するのは、規制されたコースでは、もちろん自分たちは目いっぱい滑りますけども、それ以外はそういうことしませんので、はい。

<スノーボーダーN>

あなた方が普通に滑ってて、スノーボーダーから追い越されることってよくありますか？

<スキーヤーM>

ありますよ。何回も。

<スノーボーダーN>

ちょっと止めましょう。結局、あなた方が、否定すれば・・・

<スキーヤーM>

それ言ってもしょうがないんで。はい、はい、はい。

<スノーボーダーN>

でね。僕が怒ってるのはね・・・

<スキーヤーM>

どっちにしたって、こういうこと言われててもさ、しょうがないんだからさ。ね。僕はもう弁護士に任せたんで、そちらの方とお話してもらえます？

<スノーボーダーN>

これはこの前の話です。弁護士に頼むのはあなたの自由。でもね・・・

<スキーヤーM>

そっちの方とお任せしてるんでね、そっちの方と、どうせ応訴なり訴訟されるんでしょうから、そっちの方とお話してください。訴訟する側とされる側がね、こういう話をしてても、しょうがないですよ。言った言わないだ、お前が気に入らないだって、そういう話をしたってね。何の建設的な意見になるわけじゃないじゃないですか。

<スノーボーダーN>

それは、あなたは、紳士的な話を、最初から拒絶してませんか？

<スキーヤーM>

いや、僕は紳士的なつもりなんですけど、かえって怒られてる方が、僕は違うと思いますけど。

<スノーボーダーN>

はっ？

<スキーヤーM>

あなたの方がすごく怒ってたような記憶があるんですけど・・・

<スノーボーダーN>

だから今は、そのときから離れて、そのときの状態を、お互いに。口頭で思い返しながら現場検証してるわけですよ。今ね。

<スキーヤーM>

僕は、あなたと今、現場検証する何か理由があるんですか？

<スノーボーダーN>

どっちが悪かったのか、本来それは、紛争となるべきなのか、それとも、話し合いで解決できるものなのか。どうかを・・・

<スキーヤーM>

だって、あなたが先に、あなたが先に、だって、あなたが先に、警察に言ったんでしょ？だから、それでしょうがないじゃないですか？あなたが告訴するって言ったじゃないですか？

<スノーボーダーN>

あなたは、あたかも。突然、僕が、警察沙汰にしたって、怒ってるような風に、取ってるみた

いけども、あの場から逃げたのは誰ですか？僕が、嵯峨さんに下まで来てもらって、当然、あなたが来てると思ったら、あなたはいなかったよ。嵯峨さんに聞いても、嵯峨さんも隠し通したよ。あなたはあの状態が分かっているながら、なぜ・・・

<スキーヤーM>

嵯峨さんは、私が関係ないと思ったから、当事者じゃないと思ったからじゃないですか？

<スノーボーダーN>

でもね、この会話の中でも、僕はあなたの言葉に対して、言いたいことがあったということ  
を、あなたも自覚してますよね？

嵯峨さんは謝ってた。嵯峨さんは、割と早い段階で謝ってたよ。でも、あなたは、謝るところ  
か、僕が悪いということを、明言しましたよね。僕が悪いことと・・・

<スキーヤーM>

いや、そんなこと言ってません。

<スノーボーダーN>

僕も悪いと。

<スキーヤーM>

はい。「あなたにも何らかの過失はあるんじゃないですか？」という話を、私は紳士的にた  
つもりです。

<スノーボーダーN>

紳士的に？

<スキーヤーM>

はい。

<スノーボーダーN>

でもね、普通、あの状態で、上から滑走してくるスキーヤーと、上を見上げて、ゆっくりと、  
移動してるスノーボーダーと、どちらにより多くの過失があると思います？

<スキーヤーM>

いや、それ自体は、どういう事故だったか、見てないんで、何とも言えないんですけど・・・

- 中略 -

<スノーボーダーN>

僕が怒っているのは、あなたに対してね、最初っから、あなたは、「過失割合があるでしょ」と。「あなたも悪いんだよ」っていうことを、あなたは、早い段階から、僕にぶつけてきたよ。「あなたも悪いんだよ」と。「100 ゼロないんだよ」と。

<スキーヤーM>

そうです。僕はそう思っています。

<スノーボーダーN>

「100 ゼロはないんだよ」と。

<スキーヤーM>

はい。そう思ってます。

- 中略 -

<スノーボーダーN>

まず自分の過失が大きいことを自覚して、謝るべきじゃないんですか？

<スキーヤーM>

嵯峨さん、一所懸命、謝った・・・

<スノーボーダーN>

あなたのことを言ってるんです、僕は。あなたの対応を。

<スキーヤーM>

僕はあなたにぶつかったわけじゃないんで・・・

<スノーボーダーN>

あなた方 2 人は、グループで一緒に滑ってて、嵯峨さんをあなたはカバーする形で、僕に対して、「お前も悪いんだ」と言わんばかりの言い方をしたでしょ？

<スキーヤーM>

いや、だから、「過失割合があるんじゃないですか？」っていう話を、私は、しました。

<スノーボーダーN>

そんな言い方じゃないですよ。

<スキーヤーM>

いや僕はちゃんときちんと紳士的にお話しました。

<スノーボーダーN>

ちょっと録音記録ありますから、聞きます？

<スキーヤーM>

はい、どうぞ。

- 中略 -

<スキーヤーM>

ねえ、野村さん。

<スノーボーダーN>

何ですか？

<スキーヤーM>

なんかさ、こうやって喋ってても分かり合えないんだからさ、時間の無駄じゃん。

- 中略 -

<スキーヤーM>

いや、弁護士。もう依頼したんで、弁護士・・・

<スキーヤーM>

ちょっと待ってくれ。あなた分かってないけど、民事訴訟になった上で弁護士が窓口になって、それを相手が、当事者は来ないで弁護士が立つのは、裁判官が主催する法廷においては、当然だよ。

でも今、民事的な話し合いの段階で、「弁護士だ、弁護士だ」と言って、逃げることはできないんだよ。

<スキーヤーM>

逃げないですよ。だからもう。全部、委任したんで、もうこれ以上・・・

<スノーボーダーN>

駄目ですって。弁護士じゃなくて、あなたが紳士的に、そのときの状況の話をするのは、当たり前のことなんです。

<スキーヤーM>

そんなことないです。弁護士にそう言われてます。

<スノーボーダーN>

当たり前のことなんです。じゃあ、それについて、白黒はっきりさせたいと言ってるって・・・

<スキーヤーM>

それについては、はっきりさせるようなスタンス・・・

<スノーボーダーN>

では、待ってますから、弁護士に話をして。電話させるように伝えてください。それ合わせてね、いつになるか。応訴しますから。

<スキーヤーM>

はい、はい、はい。

<スノーボーダーN>

そういう立て板に水みたいな態度って、相手に、ぞんざいな印象を与えませんか？失礼な、相手を小馬鹿にしてるような印象を与えるんじゃないですか？

<スキーヤーM>

小馬鹿になんかしてないですよ。僕、全くしてないです。全くしてない。僕では、ちょっと許容範囲を超えてるんで・・・もう・・・

<スノーボーダーN>

「民事と刑事は別」くらい、あなただって分かるでしょう？ 弁護士を盾にできないってことだって、あなただって分かるでしょう？

<スキーヤーM>

いやもう弁護士と相談しますんで、弁護士に・・・

<スノーボーダーN>

駄目ですよ。そんなの。待ってますからね。すぐに電話するように伝えてもらえます。

<スキーヤーM>

はい、はい。

<スノーボーダーN>

本当にやってくれます。お願いします。すぐなかったらまた電話しますから。

<スキーヤーM>

はい、はい、はい、はい、はい、はい。

以上